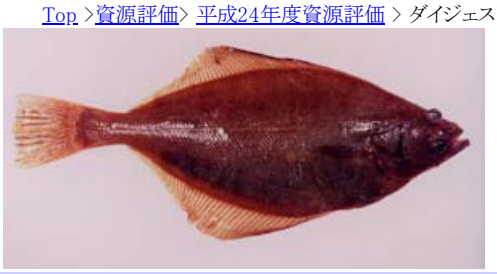
平成24年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ソウハチ

学名　*Hippoglossoides pinetorum*

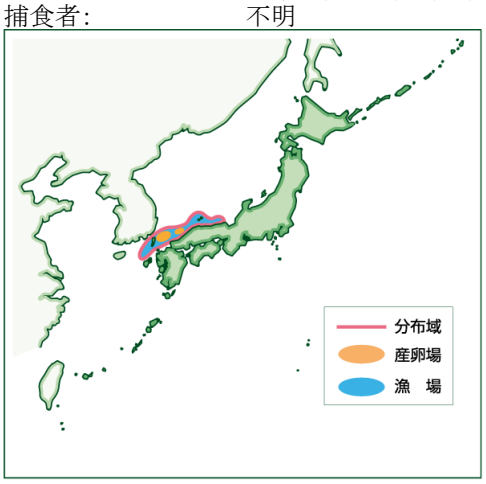
系群名　日本海系群

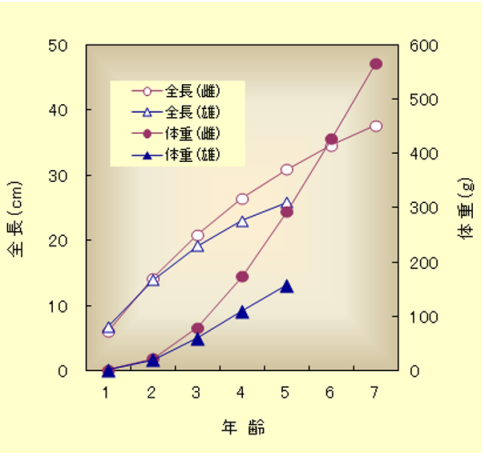
担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命:　7歳以上
成熟開始年齢:　雄2歳、雌3歳
産卵期・産卵場:　冬～春季（1～3月）、対馬周辺海域および島根県浜田沖
索餌期・索餌場:　日本海西部
食性:　エビジャコ類やアミ・オキアミ類を主に捕食、全長15cm以上ではキュウリエソなどの魚類、20cm以上ではホタルイカ等のイカ類が胃内容物中に占める割合が高い
捕食者:　不明



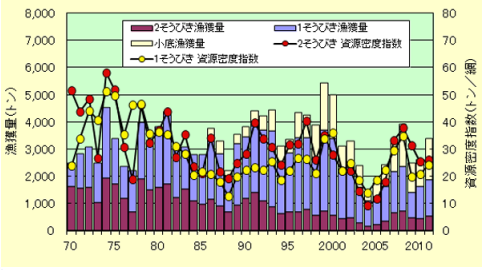


漁業の特徴

日本海西部海域においは、ほとんどが1そうびき及び2そうびき沖合底びき網（沖底）と小型底びき網（小底）によって漁獲される。1990年代前半までは沖底の漁獲量が総漁獲量の80～90%を占めていたが、近年は小底による漁獲割合が40%前後まで増加した。

漁獲の動向

漁獲統計が整備された1986年以降では1999年には5,000トンを超えるピークが認められる。その後急減して2004年には最低の約1,500トンまで減少したが、2008年には約4,000トンに増加、2009～2010年には2,500～2,700トンに減少、2011年には約3,500トンに増加と変動を繰り返している。

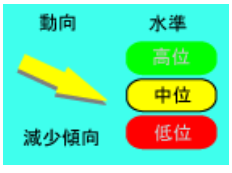


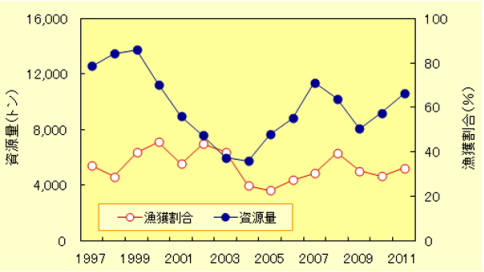
資源評価法

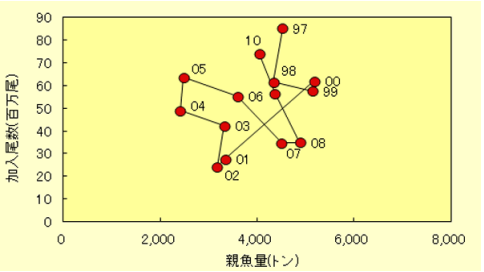
漁獲量の大半を占める1そうびき沖底および2そうびき沖底の資源密度指数とともに、年齢別の漁獲尾数に基づくコホート解析により資源評価を行った。なお、本種は0歳魚がほとんど漁獲されないので、コホート計算による資源量は0歳魚を含まない漁獲対象資源である。また、資源密度指数は10分マス目で設定された漁区ごとの月別CPUE（漁獲重量（kg）／ひき網回数）の年計を有漁漁区数で除したものである。

資源状態

1そうびき沖底、2そうびき沖底の資源密度指数は、ともに1970年代の最高値と1980年代の減少が認められる。近年では2004年の最低値から2008年まで増加して再度減少と増加を繰り返し、長期的な推移から2011年の資源水準は中位と判断した。最近5年間の資源密度指数とコホート解析による推定資源量の推移から資源動向は減少と判断した。再生産成功率は2007～2008年に最低水準まで低下したが、その後平均よりも高い水準まで回復した。親魚量は平均的な水準にあると推定される。





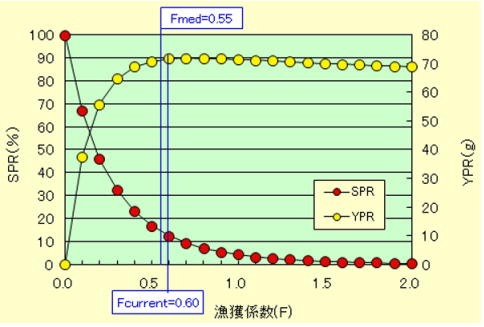


管理方策

資源水準は中位、親魚量は過去の平均的な水準にあり、再生産成功率は平均より高い水準に回復したと推定される。ABC算定のための基本規則1-1-(1)を使用して、近年の再生産成功率が継続した場合に資源の維持が期待できる漁獲量を、ABClimitとした。不確実性を見込んだABCtargetは、ABClimitを与えるFlimitに0.8を乗じたFtargetによって求めた。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	32百トン	Fmed	0.55	34%
ABCtarget	27百トン	0.8Fmed	0.44	29%

- F値は各年齢のFの単純平均
- 漁獲割合はABC／資源量



資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は減少
- 親魚量は平均的な水準にあり、再生産成功率は平均より高い水準にある

管理方策のまとめ

- 近年の再生産成功率が継続した場合に資源が維持できる漁獲圧にとどめる
- 1、2歳魚の漁獲割合が高いため、若齢魚に対する漁獲を抑え親魚量の維持を図ることが重要である

執筆者：木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。